

下水道事業・雨水浸水対策事業について

西宮市の下水道普及率はほぼ 100%に達し、全市に下水道の整備が行き届いており、下水道をつくる時代から管理する時代が変わってきています。

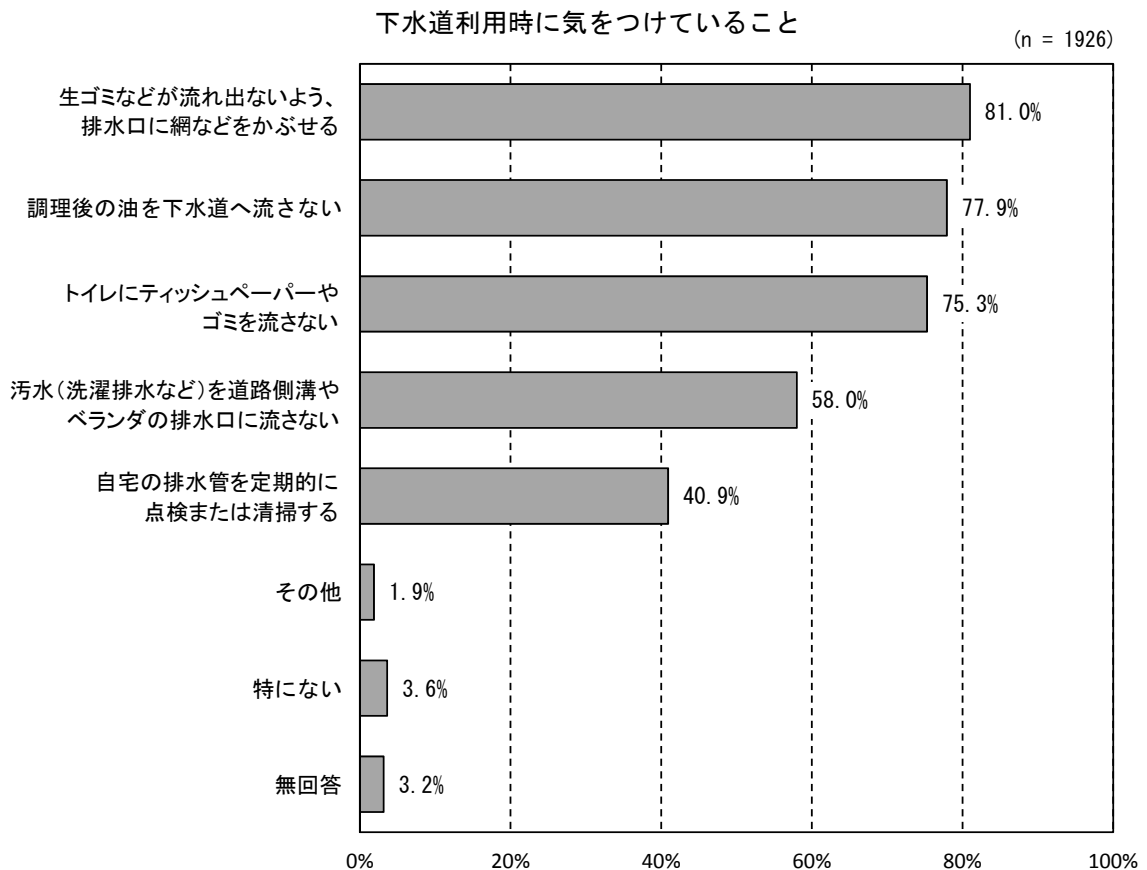
また、下水道は雨水を排水する役割も担っており、西宮市では 1 時間に 47mm 程度降る雨に対応できるように整備が進んでいます。しかし、地球温暖化等の影響でそれ以上に激しい雨の降る回数が年々増えており、そのような雨が降ると、下水道で排水できなかった雨水により、道路や宅内に浸水被害が発生しています。西宮市では、市内の浸水被害の軽減を目指し、より強い雨に対応できるように雨水浸水対策を進めていきます。

市民の皆様から見た雨水浸水対策等に関してご意見をお聞きし、今後の事業に役立てていきたいと考えています。

問 25 下水道を使用するとき、あなたが気をつけていることは何ですか。(あてはまるものをすべて選んで○)

最も多い回答は「生ゴミなどが流れ出ないように、排水口に網などをかぶせる」。

- 下水道を使用するとき、気をつけていることとして、最も多い回答は、「生ゴミなどが流れ出ないように、排水口に網などをかぶせる」で 81.0%、次いで「調理後の油を下水道へ流さない」が 77.9%、「トイレにティッシュペーパーやゴミを流さない」が 75.3%となっている。



- ・住まいの種別にみる回答の割合は、「生ゴミなどが流れ出ないように、排水口に網などをかぶせる」、「調理後の油を下水道へ流さない」、「トイレにティッシュペーパーやゴミを流さない」がどの住まいの種別でも高い。「自宅の配水管を定期的に点検または清掃する」は持ち家（マンションなどの集合住宅）でやや高い傾向を示している。

(単位：%)

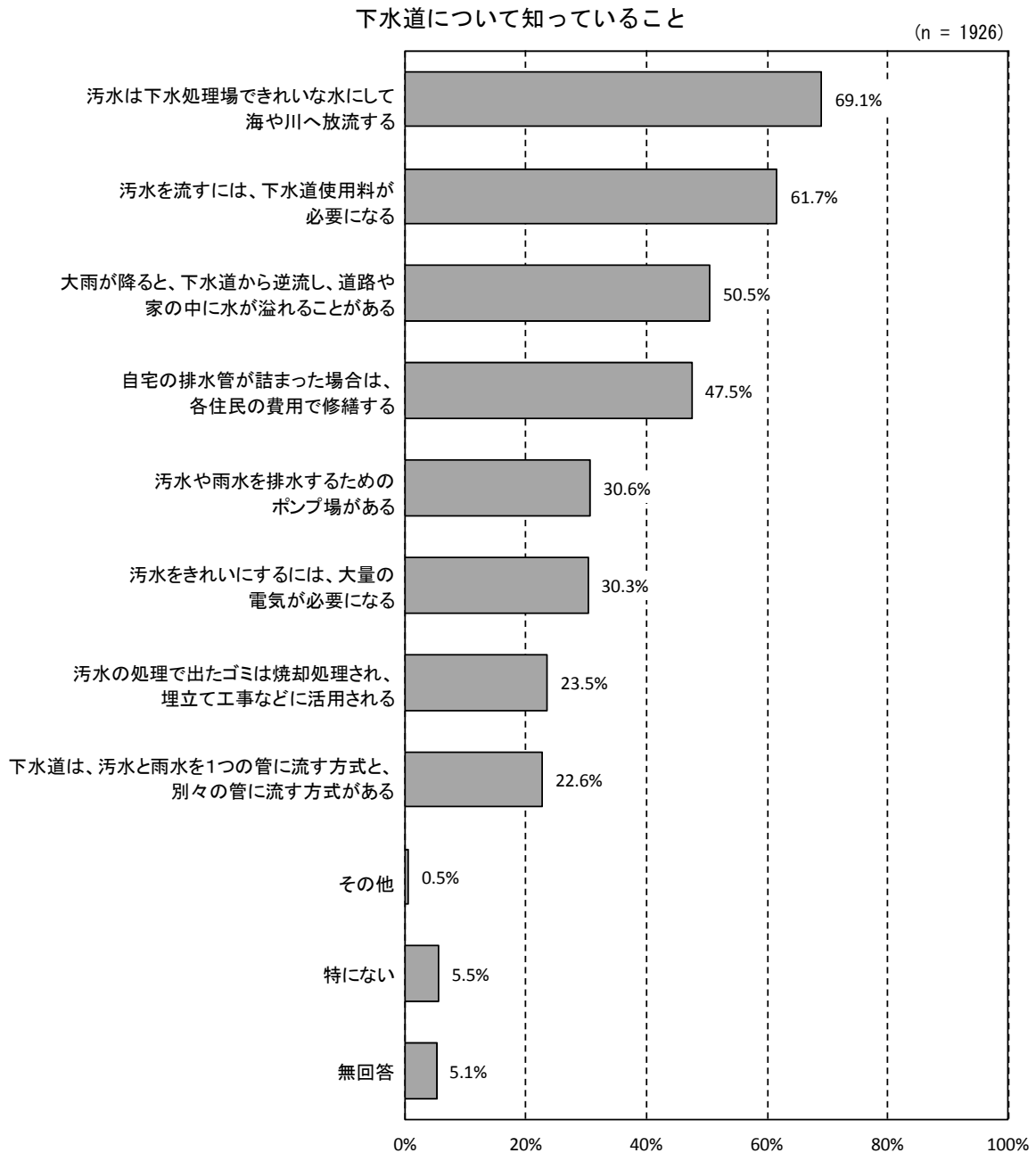
	トイレにティッシュペーパーやゴミを流さない	調理後の油を下水道へ流さない	生ゴミなどが流れ出ないように、排水口に網などをかぶせる	汚水（洗濯排水など）を道路側溝やペランダの排水口に流さない	自宅の排水管を定期的に点検または清掃する	その他	特になし	無回答
全体(n=1926)	75.3	77.9	81.0	58.0	40.9	1.9	3.6	3.2
持ち家（一戸建て、長屋建て） (n=849)	76.6	79.4	81.0	59.4	30.2	1.6	3.7	4.0
持ち家（マンションなどの集合住宅） (n=518)	75.7	80.3	80.9	61.6	67.8	1.9	2.7	2.3
公営・公社・都市再生機構（UR） などの賃貸住宅（n=156）	74.4	71.8	76.3	50.6	41.7	4.5	5.1	5.8
民間の賃貸住宅・マンション・ 間借り（n=330）	73.6	73.9	83.3	53.3	27.3	0.9	4.2	1.2
社宅・寮など（n=53）	73.6	75.5	83.0	50.9	35.8	1.9	3.8	0.0
その他（n=11）	54.5	90.9	81.8	54.5	45.5	0.0	0.0	0.0

※表内の網掛け部分は、全体を10ポイント以上上回るものを示している。

問 26 下水道について、あなたが知っていることは何ですか。(あてはまるものをすべて選んで○)

最も多い回答は「汚水は下水処理場できれいな水にして海や川へ放流する」。

- 下水道について知っていることとして、最も多い回答は、「汚水は下水処理場できれいな水にして海や川へ放流する」で69.1%、次いで「汚水を流すには、下水道使用料が必要になる」が61.7%となっている。

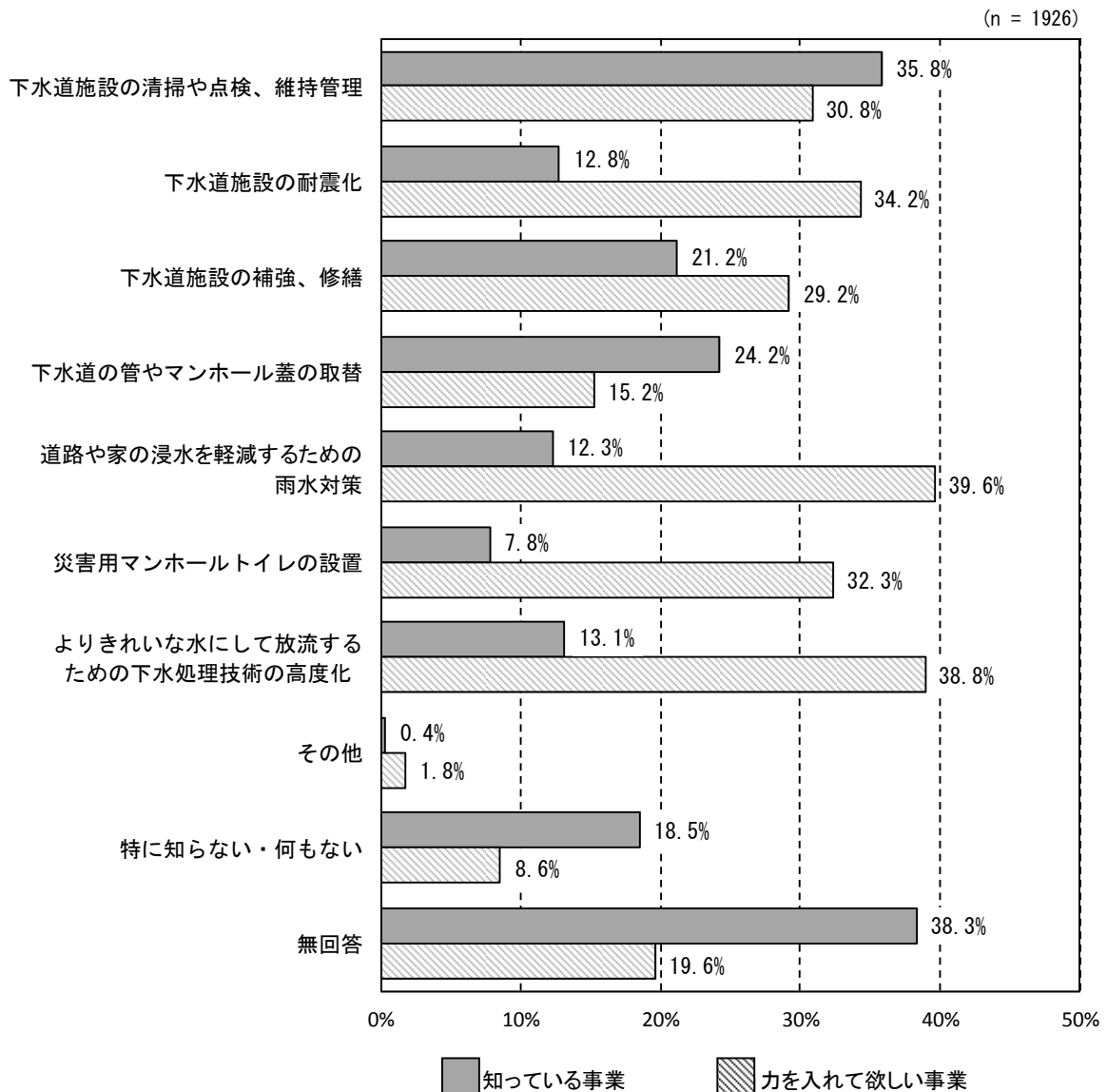


問 27 西宮市が行っている下水道事業について、あなたが知っている事業と今後力を入れて欲しい事業は何ですか。(あてはまるものに○を記入してください)

下水道事業について知っている事業は「下水道施設の清掃や点検、維持管理」の回答が、今後力を入れて欲しい事業は「道路や家の浸水を軽減するための雨水対策」の回答が最も多い。

- 下水道事業について知っていることとして、最も多い回答は、「下水道施設の清掃や点検、維持管理」で35.8%、次いで「下水道の管やマンホール蓋の取替」が24.2%となっている。
- 今後力を入れて欲しい事業として、最も多い回答は、「道路や家の浸水を軽減するための雨水対策」で39.6%、次いで「よりきれいな水にして放流するための下水処理技術の高度化」が38.8%、「下水道施設の耐震化」が34.2%、「災害用マンホールトイレの設置」が32.3%となっており、これらはいずれも「知っている」割合よりも20%ポイント以上高い。

西宮市の下水道事業について知っている事業・力を入れて欲しい事業



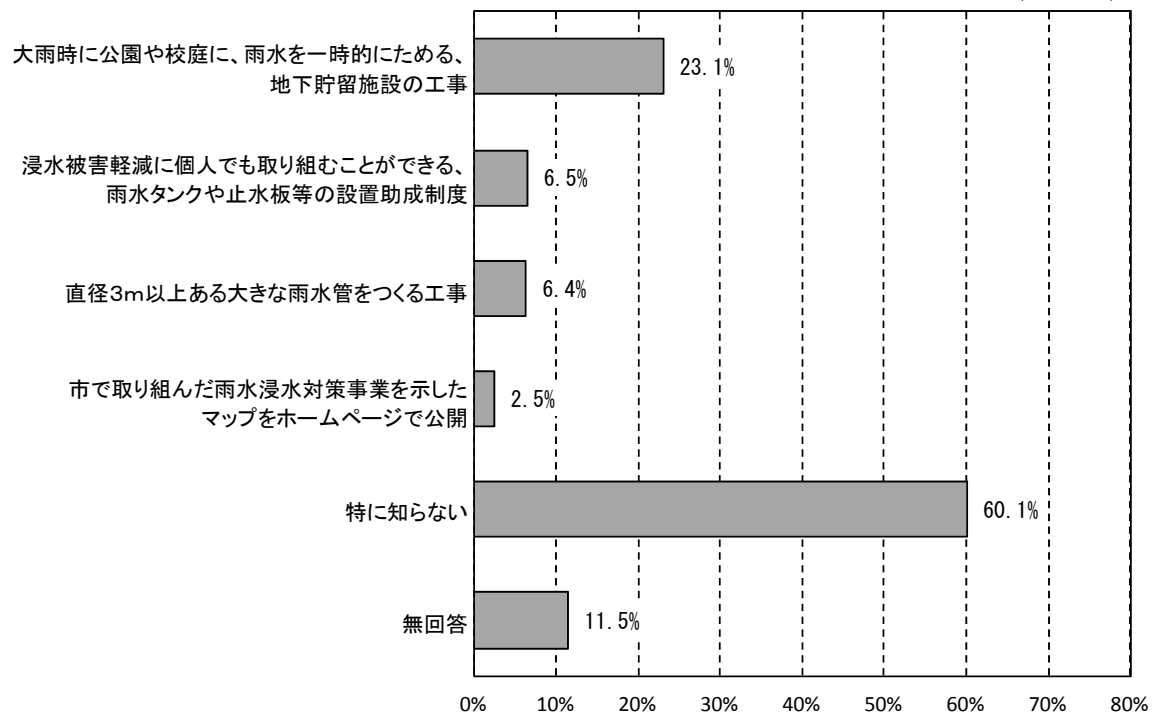
問 28 雨水浸水対策について、あなたが知っていることは何ですか。(あてはまるものをすべて選んで○)

最も多く知られている雨水浸水対策は「大雨時に公園や校庭に、雨水を一時的にためる、地下貯留施設の工事」。

- 雨水浸水対策について、最も多く知られているのは「大雨時に公園や校庭に、雨水を一時的にためる、地下貯留施設の工事」で 23.1%、次いで「浸水被害軽減に個人でも取り組むことができる、雨水タンクや止水板等の設置助成制度」が 6.5%、「直径 3m 以上ある大きな雨水管をつくる工事」が 6.4%となっている。

雨水浸水対策について知っていること

(n = 1926)



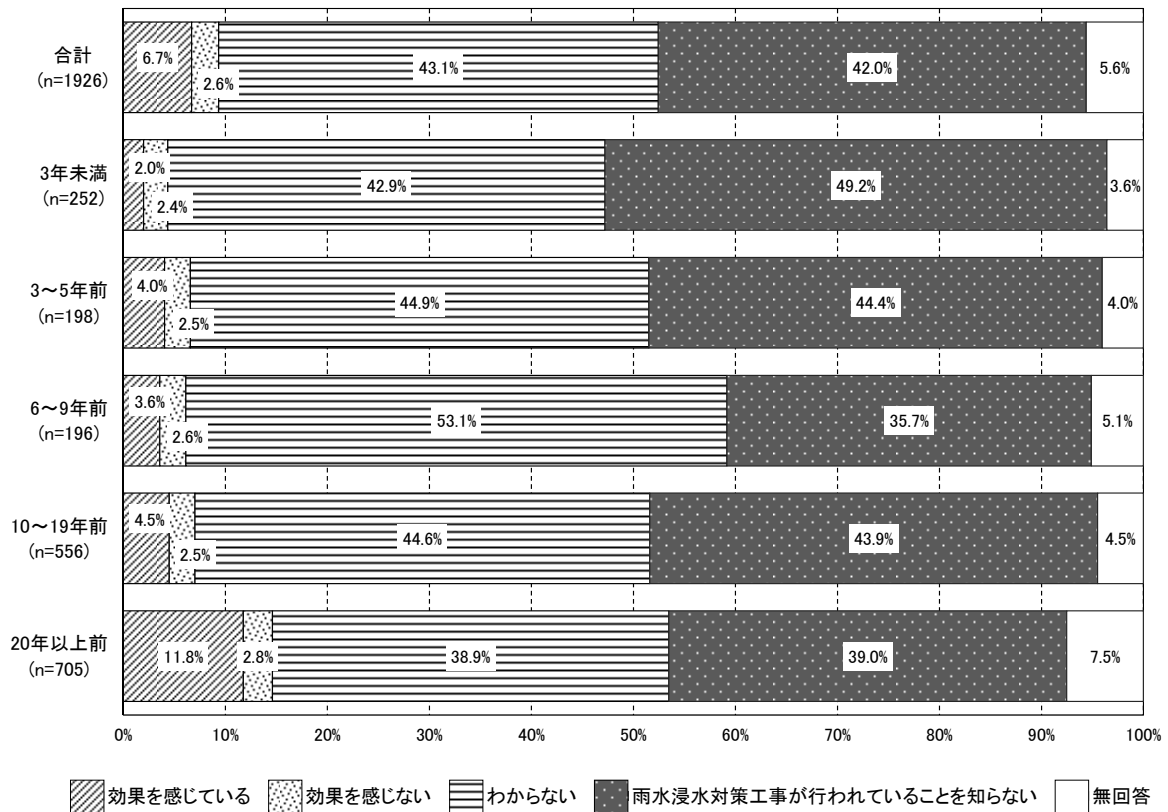
問 29 西宮市では、雨水浸水対策事業を過去に台風や豪雨により、浸水被害が発生した地域を優先して毎年実施しています。あなたがお住まいの地域で雨水浸水対策工事が実施された後、雨水浸水対策の効果を感じたことがありますか。(1つ選んで○)

雨水浸水対策の効果について「わからない」もしくは「雨水浸水対策工事が行われていることを知らない」が約85%。

- ・回答者全体では雨水浸水対策の効果について6.7%が「効果を感じている」としている一方で、43.1%が「わからない」、42.0%が「雨水浸水対策工事が行われていることを知らない」としている。
- ・「効果を感じている」と回答した割合が最も多いのは、現在の場所に20年以上前(平成8年以前から)住んでいる人であり、11.8%となっている。

西宮市での雨水浸水対策の効果を感じているか

(現住所居住時期別 集計結果)



施策に向けての一言 <下水道事業・雨水浸水対策事業について>

下水道は都市生活において不可欠のインフラである。問 25 は下水道利用に際して市民が気をつけていることを尋ねている。排水口に網をかぶせること、調理油を下水道に流さないこと、トイレにティッシュペーパーやごみを流さないことはいずれも 75%から 80%を超える割合で意識されている。これに対して洗濯排水などの汚水を道路側溝やベランダの排水口に流さないことや、自宅の配水管の定期的な点検と清掃は割合が下がっている。

問 26 は下水道に関する市民の知識を問うている。6 割を超えているのは「汚水は下水処理場できれいな水にして海や川に放流される」「汚水を流すには、下水道使用料が必要になる」の 2 項目で、それ以外の 6 項目はほぼ半数からそれ以上知られていない。

問 27 は下水道事業に関する市民の知識を問う設問である。問われている項目の中で最も知られているのは「下水道施設の清掃や点検、維持管理」だが、それでも 36%弱である。要するに多くの市民は下水道事業の詳細については知識を持っていない。雨水浸水対策についても同様で、最も多い回答は「特に知らない」というもので 60%を占める(問 28)。最もよく知られているのは雨水を一時的にためる地下貯留施設の工事だが、知っているのは 4 分の 1 程度の人々である。

問 29 は雨水浸水対策事業の効果について尋ねたものだが、4 割の回答者は対策工事が行われていること自体を知らないし、同程度の回答者が効果についてはわからないと答えている。ただし 20 年以上前からの居住者においては、効果を感じているという回答の割合が全体よりも高いが、それでも 12%弱である。

このように下水道事業はあまりよく知られていない縁の下での力持ち的存在である。下水道が整備されればされるほど、市民はその存在を当然視しがちだが、下水道網の維持と整備にはもちろん高いコストがかかる。その点について市民の理解を深めるために、どのような知識をいかにして伝えていくかを戦略的に考えておく必要があるだろう。

(関西学院大学 山田真裕)